



近年、春から夏にかけて暑い日々が続き野菜が作りにくくなってきました。少しでも上手に野菜を育てる方法を紹介したいと思います。

暑い日が続くと作物も非常に疲れてしまいます。また、水やりの機会も増えてきます。

作物が暑い日乗り越えて生育しやすくするためには土づくりが必要です。



深く耕すこと

畑を深く耕すことで硬くなった土をほぐし、土の中に空気を含ませることができます。柔らかい土にすることで、野菜の根が伸びやすくなります。目安としては15cmから30cmです。根菜類を作る畑ではより深く耕し、根がスムーズに伸びる環境を作る必要があります。

有機資材の投入

深く耕すことで土壌環境がすべて改善されるというわけではありません。土の中の有効な微生物を活性化させたり、酸度調整をしたりすることも大切です。

微生物の活性化には堆肥や腐葉土の投入がよいでしょう。

堆肥などの有機物を投入すると有機物が菌などによって分解され、腐植酸となり土は団粒構造となり肥料成分の保持、保水性、排水性をよくするとともに、植物ホルモンに似た作用により根の成長を促します。

また、酸度調整には、石灰資材を投入しましょう。野菜には生育しやすい土壌の領域がありますが、大半の野菜がpH6.0から6.5が生育しやすい環境です。

手軽に使える有機資材



ふりかけ堆肥eco

散布量が堆肥の10分の1で土づくりができます。

また、肥料持ち(保肥力)がよくなるほか、微生物を繁殖させ土壌微生物相を改善し、連作障害の軽減が期待できます。

正誤表

きりり11月号P11にて、誤りがございましたので下記の通り訂正します。
玉ねぎの『早生・中生・晩生』ってなに？

		晩生（おくて）
誤	種まき	9月中～下旬頃
正	種まき	9月中～10月中旬

皆様に深くお詫び申し上げます。